

平成17年度宮古群島病害虫発生予報第4号（7月予報）

7月の気象予報

要素別予報

要 素	気 温	降 水 量	日 照 時 間
予 報	並～高	少～並	並～多

(平成17年6月24日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地域平均の要素別「平年並」の範囲

要 素	気 温 ()	降 水 量 (mm)	日 照 時 間 (h)
宮古群島	28.2 ~ 28.6	66.0 ~ 125.3	234.9 ~ 267.1

(平成17年6月24日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

7月の発生予報 および防除上の注意事項

向こう1ヶ月間に農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

宮古群島

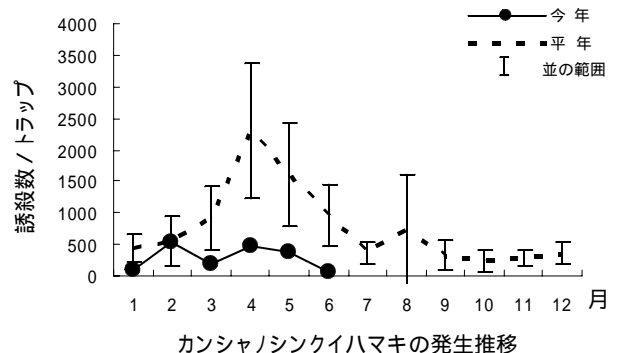
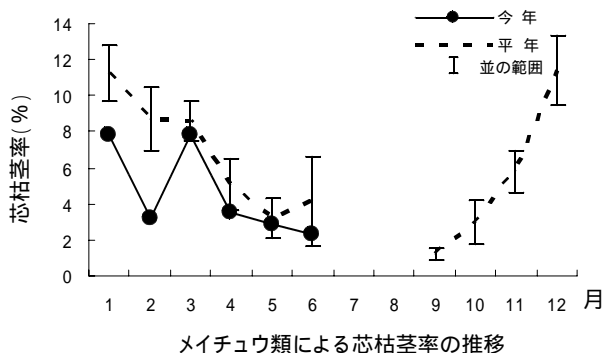
1 さとうきび

(1) メイチュウ類

発生程度 : やや少

予報の根拠

- a 6月上旬の調査の結果、新植春植え圃場での芯枯茎率は2.3%（前年2.8%、平年4.2%）と平年並みであった。
- b 6月のカンシャノシンクイハマキ合成性フェロモンによるトラップあたりの誘殺虫数は75.9頭（昨年140頭、平年960頭）と平年よりやや少なかった。



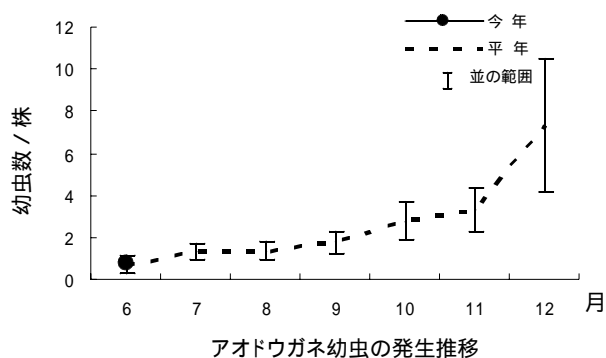
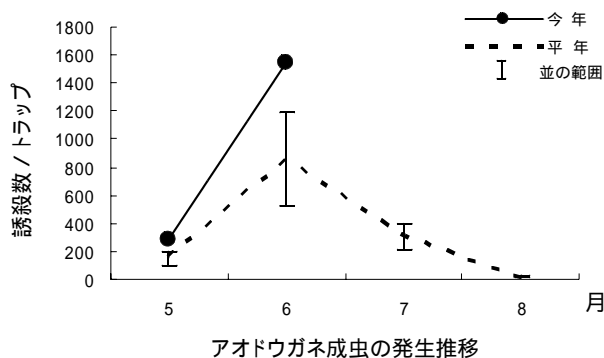
防除上注意すべき事項

加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点をおく。

(2) アオドウガネ

発生程度 : やや多
予報の根拠

- 6月の予察灯への成虫誘殺数は1544頭（前年669頭、平年857頭）と平年よりやや多かった。
- 6月の掘取り調査の結果、株あたり虫数は0.8頭（前年0.5頭、平年0.7頭）と平年並みであった。



防除上注意すべき事項

- 5～7月は成虫の発生時期にあたるので、誘殺灯の管理ならびに誘殺虫の回収処分を徹底する。
- 6～7月は幼虫の防除適期（1～2齢期）にあたるので、被害の多い地域では防除適期を逸しないようにする。

2 マンゴー

蛾類、ハダニ類の防除対策について

- 6月下旬の調査の結果、一部の圃場でコシロモンドクガ幼虫、タイワンキドクガ幼虫とマンゴーツメハダニ（旧名マンゴーハダニ）の多発を確認した。
- 蛾類幼虫については、成虫の飛び込みを防ぐため、施設のネット補修や出入り口にネットを垂らしたりなどする。
- ハダニ類については、高温乾燥下で増加しやすいので、施設内が乾燥しないように管理する。気象予報によると、7月の気温は平年並みか高く、降水量は平年並みか少ない見込み。